



## Aruba® S3500 モビリティ アクセス スイッチ

S3500モビリティ アクセス スイッチは、ユーザーの役割に応じた有線ネットワークへのアクセスを付与する新しい製品です。Aruba MOVE (Aruba Mobile Virtual Enterprise : MOVE) アーキテクチャの要であるS3500は、場所やアクセス方法、利用しているデバイスやアプリケーションを問わず、ユーザーに安全な仮想アクセス サービスを保証します。

S3500はワイヤ クローゼットのネットワーク アクセスを対象に設計されており、24ポートまたは48ポートの10/100/1000BASE-T、およびオプションでアップリンク モジュールを付属可能。それぞれIEEE 802.3af (PoE) および82.3at (PoE+) に基づきポートあたり最大30ワットをサポートする PoE (Power-over-Ethernet) モデルがあり計4 通りのモデルがあります。

S3500は仮想デスクトップ、IP フォン、ビデオ フォン、教室周辺機器、医療機器、POS端末、監視カメラその他あらゆる802.11nワイヤレス アクセス ポイントなどの有線イーサネット デバイスとの接続を可能にします。

### 有線アクセスのフレキシブルな展開

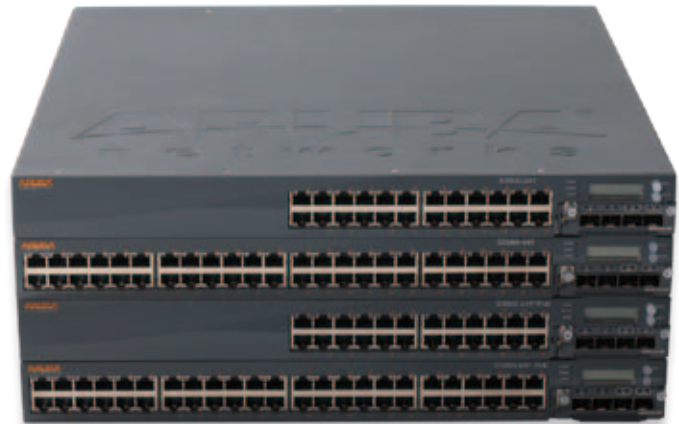
S3500は有線ユーザーに対し、ロール毎のアクセスを容易にプロビジョニングできる点が特徴です。いずれのポートでも、ネットワーク アクセスおよびポリシーの施行をICSA認証ファイアウォール経由で管理でき、Arubaモビリティ コントローラへトラフィックをトンネルするために構成できます。モビリティ コントローラへトラフィックをトンネルする際には、S3500はAruba 802.11n のワイヤレス アクセス ポイントと同じく、有線 アクセス ポイントとして稼働します。

ユーザーやデバイスは有線アクセス ポイントとしてモビリティ コントローラに認証され、ロールが付与されます。ユーザーやデバイス、アプリケーションに応じて単一のロールが定義されます。このロールは、ユーザーがワイヤレス802.11nアクセス ポイント、もしくは S3500上のポートのいずれで接続しているかによって、モビリティ コントローラ内のレイヤー2から7のポリシーが適用されます。

その結果、ユーザーやデバイスが、例えば1つのビル内の有線ポートを使用しているか、別の有線ポートへ移動したか、またはArubaのワイヤレスLAN (WLAN) アクセス ポイントを経由してネットワークへアクセスしているかに関わらず、セキュリティポリシーが常時適用されます。したがってアクセス ネットワーク上の全てのユーザーとデバイスの管理と可視性の確保、そしてユーザー追加時や変更時の時間が節約できます。

S3500はレイヤー2及びレイヤー3\*のプロトコルもサポートし、ポートはローカル転送と構成できます。アクセス コントロール リスト (ACL) は、S3500上にブリッジされ、ルートされたトラフィックに対するポリシーエンフォースを可能にします。

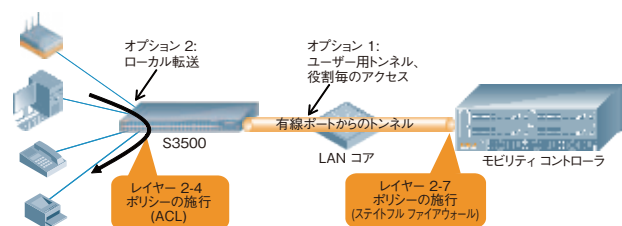
ローカル転送およびトンネル トラフィックが、ポート毎またはユーザー毎\*に構成できます。要件によっては、一部のトラフィックはロール毎のポリシーエンフォースを目的にコントローラに送られ、別のトラフィックはブリッジされ、S3500上でローカルにエンフォースされることがあります。



S3500はまた、ワイヤレス アクセス ポイントのトンネル終着点、ユーザー 認証、およびポリシー施行を管理するためのトンネル コントローラ\*としても構成されることがあります。これら構成は、場合によってデータセンターにあるArubaのマスター コントローラによってS3500のローカル コントローラへプッシュされます。S3500はまた、小規模オフィスへの展開を目してマスター コントローラとして機能させることも可能です。

ネットワーク アクセス セキュリティに加えて、S3500はIEEE 802.1AE Media Access Control Security (MACsec) を経由したデータの暗号化にも対応しています。\*MACsecはMACsec対応デバイス間、例えばS3500とAruba AP-130シリーズの802.11nワイヤレス アクセス ポイントの間などでのコネクションレス データの機密性を守ります。

図 1: フレキシブルな有線アクセス

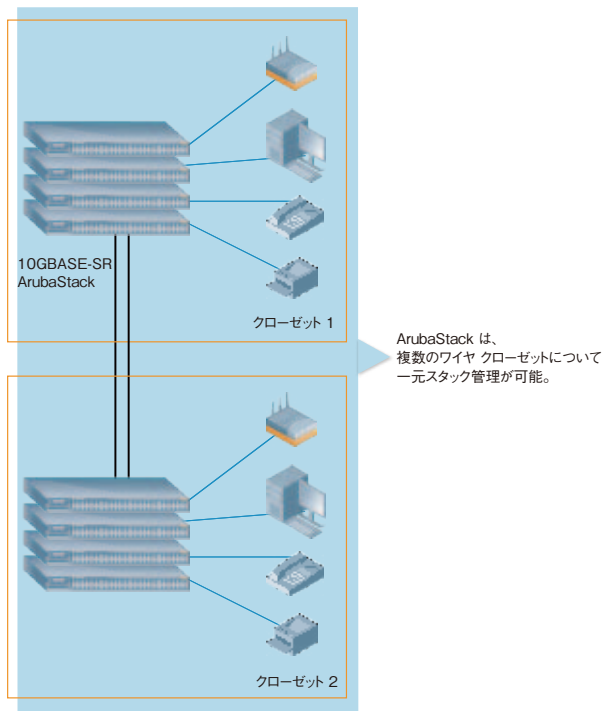


### ArubaStack™ をワイヤ クローゼット外に拡張

ArubaStackはS3500のネットワーク アクセス設計の世界に新たな機会をもたらします。ArubaStack は、単一IPアドレス、単一構成ファイルで最大8台のS3500sを相互接続し、1台の論理デバイスとして管理できます。S3500 はそれぞれスタッキングを可能とするため、オプションで4ポート10ギガビット イーサネットのアップリンク モジュールをサポートしています。

## Aruba S3500 モビリティ アクセス スイッチ

図2: ワイヤ クローゼットを隔てた ArubaStack



通常の構成では、アップリンク モジュール上の2台のポートが ArubaStack に用いられ、40Gbps 帯域幅でスタックを作成します。各モジュールに残るそれぞれ2台のポートはLANコアへの接続に用いられます。S3500のアップリンク モジュールは、1Gbpsまたは10Gbpsの光線に対応しており、さらに別々のワイヤ クローゼット、また数キロ隔てた地点にある別の建物敷地内に点在する全てのS3500を接続できます。

### Aruba S3500 モビリティ アクセス スイッチ

複数のワイヤ クローゼットを1つのArubaStackと相互接続することにより、S3500はアップリンクやLANコア内の高額なルート ポートを削減、LANトポロジーを単純化、ひいては資本コスト、操業コストを従来のワイヤ クローゼット設計において最大 30% 抑えます。

S3500にはさらなる最大活用を保証すべく、ホットスワップ可能な電源のほか、マルチ送風ファン トレイ、現場交換可能なアップリンク モジュールを備えています。

### 退屈なネットワーク構成作業から御社の IT 担当者を解放

レガシー スイッチと異なり、S3500はいわゆる「ゼロ タッチ構成」をサポート、またアップグレードすることで簡便性と効率を向上することができます。ネットワークへの接続が確立すると、S3500はまず中央のモビリティ コントローラに対して発信し、構成情報がS3500に送られてきます。

モビリティ コントローラ上の構成プロファイルとグループにより、ネットワークされたS3500全ての構成を、Arubaワイヤレス アクセス ポイント並に簡易化できます。各 S3500への自動ダウンロードにより、手動構成を必要としない素早く簡潔な展開が実現します。またその後の構成変更やアップグレードはモビリティ コントローラで一括実施され、各S3500に自動的にプッシュされます。

さらにS3500は有線 アクセス ポイントとして構成することで、ネットワーク管理者を、ネットワーク アクセス レイヤー上の各デバイスに対する仮想 LAN (VLAN)、ACL、およびQoSそれぞれのポリシーの構成作業から解放、ユーザー追加、移動、変更に関わる管理コストと煩雑作業を大幅に削減します。VLAN トランクがモビリティ コントローラと構成されることにより、アクセス レイヤー上において特段のVLANは必要なくなり、トラフィックはコアにおいて適切なVLANにルートされます。同様に、ユーザーの役割毎に設定したポリシーを採用したセキュリティとQoS がモビリティ コントローラ側で施行されます。

Aruba S3500はあらゆるワイヤ クローゼットに展開でき、有線・ワイヤレスのインフラを別途管理、保護、準備する手間なく有線アクセスを使用できるようになります。結果としてユーザーの役割別のネットワークを安全に一元管理できるようになり、有線・ワイヤレスに関わらず、アクセス インフラストラクチャー全体の制御性と可視性の向上を実現します。

\*Roadmap item



© 2011 Aruba Networks, Inc. All rights reserved. Aruba Networksは、Aruba Networks, Inc.の商標です。その他の商標または登録商標は各社の所有物です。仕様については、予告なく変更されることがあります。

2011.06.1000.v1

■ 開発元

アルバネットワークス株式会社

〒105-0004 東京都港区新橋5-27-1 パークプレイス3F  
TEL. 03-6809-1540 (代表) FAX. 03-6809-1541  
<http://www.arubanetworks.co.jp>

■ お問い合わせ